

0.1 分類空間

Topological category からはその分類空間を構成できる。これは、topological monoid や small category の分類空間の一般化になっている。いずれにしても、simplicial space、simplicial set の category を経由して、その幾何学的実現を取るというもので、small category の場合には CW complex として実現される。

Definition 0.1.1

X_* が simplicial space とは、空間列 $\{X_n\}_{n \geq 0}$ と、その間の連続写像、 $d^j : X_n \rightarrow X_{n-1}$, $s^i : X_n \rightarrow X_{n+1}$ ($0 \leq i, j \leq n$) が与えられ、ある条件を満たすものである。特に、空間が discrete のとき、simplicial set と呼ぶ。

Δ^n を n 次単体とし、

$$d_j : \Delta^{n-1} \rightarrow \Delta^n, s_i : \Delta^{n+1} \rightarrow \Delta^n \quad (0 \leq i, j \leq n)$$

をそれぞれ、 j -th face への inclusion と、 i -th face への押しつぶしとする。このとき、

$$|X_*| = \coprod \Delta^n \times X_n / \sim$$

と定義する。ただし、 $t \in \Delta^{n-1}, x \in X_n$ に対し、 $(d_j(t), x) \sim (t, d^j(x))$ 。また、 $s \in \Delta^{n+1}, y \in X_n$ に対し、 $(s_i(t), y) \sim (t, s^i(y))$ 。これを X_* の幾何学的実現とよぶ。

$$|-| : \text{Simplicial space} \rightarrow \text{Space}$$

は functor となる。

Definition 0.1.2

D を topological category とする。このとき、simplicial space、 $N_*(D)$ を次のように定義する。

$$N_p(D) = \{ (f_1, \dots, f_p) \in \text{Mor}(D)^p \mid t(f_{i-1}) = s(f_i) \ 1 \leq i \leq p \}$$

そして、 $d^j : N_p(D) \rightarrow N_{p-1}(D)$, $s^i : N_p(D) \rightarrow N_{p+1}(D)$ は、

$$d^j(f_1, \dots, f_p) = (f_1, \dots, f_j \circ f_{j+1}, \dots, f_p) , s^i(f_1, \dots, f_p) = (f_1, \dots, f_i, 1, f_{i+1}, \dots, f_p) \quad (0 \leq i, j \leq p)$$

で定義する。ただし、 $N_0X = \text{ob}(D)$, $N_1X = \text{Mor}(D)$ で $d^0 = t$, $d^1 = s : N_1X \rightarrow N_0X$ であり、 $s^1 = i : N_0X \rightarrow N_1X$ である。 N_*D を D の nerve とよび、この幾何学的実現 $|N_*D|$ を D の分類空間と呼び、 BD などと書く。

Example 0.1.3

object が 1 つで morphism が恒等射のみの category である $D = \{\phi\}$ を考える。このとき、任意の p に対し、 $N_p(D) = *$ であり、 $BD = \coprod_{n \geq 0} \Delta^n \times * / \sim$ であるが、ここで、同値関係を考えると、任意の $t \in \Delta^n$ に対し、 $(t, * = s^i(*)) \sim (s_i(t), *) \sim \dots \sim (*, *)$ なので、 $|N_*(D)|$ は一点空間である。

Example 0.1.4

$D = \{x \xrightarrow{f} y \xrightarrow{g} z\}$ を考える。Example 0.1.3 より、恒等射は省略して考えてよい。

$$N_0X = \{x, y, z\}, N_1X = \{f, g, fg\}, N_2X = \{(f, g)\}$$

であり、

$$BD = \Delta^0 \times \{x, y, z\} \amalg \Delta^1 \times \{f, g, fg\} \amalg \Delta^2 \times \{(f, g)\} = \Delta^2$$

同様に、 $D = \{a_1 \longrightarrow \cdots \longrightarrow a_n\}$ のとき、 $BD = \Delta^n$

Example 0.1.5

M : topological monoid は $\text{ob}(M) = *$ 、 $\text{Mor}(M) = M$ という topological category と考えられる。このとき、 $N_k M = M^k$ である。

Proposition 0.1.6

$B(C \times D) \cong BC \times BD$ である。

proof) $|-| : \text{Sspace} \rightarrow \text{Space}$ と、 $N_* : \text{top-cat} \rightarrow \text{SSpace}$ がそれぞれ product を保つことを示せばよい。

Proposition 0.1.7

$F, G : C \rightarrow D$: continuous functor に対し、 $\alpha : F \rightarrow G$ を continuous natural transformation とする。このとき、 $BF \simeq BG : BC \rightarrow BD$ となる。

proof) $I = \{0 \rightarrow 1\}$ という、small category と考える。 $\alpha : F \rightarrow G$ より、

$$A : C \times I \rightarrow D$$

を、object 対応は、 $A(c, 0) = F(c)$ 、 $A(c, 1) = G(c)$ で定義し、morphism 対応は、

$$\text{Hom}_{C \times I}((x, i), (y, j)) = \text{Hom}_C(x, y) \times \text{Hom}_I(i, j) \rightarrow \text{Hom}_D(A(x, i), A(y, j))$$

を考えればよいのだが、 $i = j = 0$ のときは、 $\text{Hom}_I(i, j) = *$ なので、

$$F : \text{Hom}_{C \times I}((x, 0), (y, 0)) = \text{Hom}_C(x, y) \rightarrow \text{Hom}_D(A(x, 0), A(y, 0)) = \text{Hom}(Fx, Fy)$$

とすればよい。同様に、 $i = j = 1$ の場合は、 G で移せばよい。 $i = 1, j = 0$ の場合は $\text{Hom}_I(1, 0) = \phi$ なので、考えなくて良い。残るは、 $i = 0, j = 1$ の場合、 $\text{Hom}_I(0, 1) = *$ である。

$$\text{Hom}_{C \times I}((x, 0), (y, 1)) = \text{Hom}_C(x, y) \rightarrow \text{Hom}_D(A(x, 0), A(y, 1)) = \text{Hom}(Fx, Gy)$$

は、 $f \in \text{Hom}_C(x, y)$ に対し、 $\alpha_y \circ F(f) = G(f) \circ \alpha_x \in \text{Hom}(Fx, Gy)$ を対応させればよい。これより、

$$BA : B(C \times I) \cong BC \times I \rightarrow D$$

となり、

$$\begin{array}{ccc} C & \xrightarrow{F} & D \\ \downarrow i_0 & & \downarrow = \\ C \times I & \xrightarrow{A} & D \end{array}$$

は可換で、 B を施して、

$$\begin{array}{ccccc} BC & \xrightarrow{=} & BC & \xrightarrow{BF} & BD \\ \downarrow i_0 & & \downarrow Bi_0 & & \downarrow = \\ BC \times I & \xrightarrow{\cong} & B(C \times I) & \xrightarrow{BA} & BD \end{array}$$

が可換となるため、 BA が BF と BG を繋ぐ homotopy となる。

Corollary 0.1.8

$F : C \rightleftarrows D : G$ ならば、 $BC \simeq BD$ で、 BF, BG が互いに homotopy inverse である。

proof) Adjoint の定義から、 $GF \rightarrow 1_C$ 、そして、 $FG \rightarrow 1_D$ という natural transformation が存在するので、Prop 0.1.7 により示される。

Corollary 0.1.9

$F : C \rightarrow D$ が equivalence of category ならば、 BF は homotopy equivalence である。

Proposition 0.1.10

C が initial object、あるいは terminal object を持つならば、 BC は contractible である。

proof) initial object $\phi \in C$ を持てば、natural transformation

$$\alpha : c_\phi \rightarrow 1_C : C \rightarrow C$$

を持つ。これより、 $Bc_\phi \simeq B1_C : BC \rightarrow BC$ を導くが、これは、 $c_\phi \simeq 1_{BC}$ ということであり、これより BC は ϕ に contractible である。terminal object を持つ場合でも同様に示せる。